

令和6年 第1回総務文教常任委員会所管事務調査報告書

令和6年1月31日

別海町議会議長 西 原 浩 様

総務文教常任委員長 佐 藤 初 雄

総務文教常任委員会の所管事務の調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

《第1回》

1 日時

令和6年1月29日（月） 午後2時30分から午後3時10分まで

2 開催場所

委員会室2

3 出席委員

佐藤委員長、田村副委員長、戸田委員、吉田委員、市川委員

4 欠席委員

なし

5 委員外

なし

6 調査事項

- （1）指定管理施設の現況と課題について
- （2）中長期財政運営基準の見直しについて
- （3）スポーツ・教育文化施設の管理方法や運営経費について
- （4）学校給食センターの稼働状況について

7 説明員の職と氏名

伊藤総務部長、寺尾総務部次長、松本総合政策課長、山田情報化推進室長、
角川財政課長、竹中税務課長、岩口防災・基地対策課長 ほか
宮本教育部長、福原生涯学習センター長、斉藤学務・スポーツ課長、吉光寺参事
池田学校教育課長、木戸口生涯学習課長、堺図書館長 ほか

8 調査結果

【総務部所管事務調査】

(1) 指定管理施設の現況と課題について。

- ・指定管理施設の現況と課題 ・課題を把握しているのに、改善の動きが見えない。
- ・モニタリングを有効活用していない

(2) 中長期財政運営基準の見直しについて

- ・現状に合わせた見直しが必要と認識しているが、改善する動きが遅い。
- ・令和 6 年度の当初予算に反映されていない。

【教育委員会所管事務調査】

(3) スポーツ・教育文化施設の管理方法や運営経費について

- ・ホワイエの蔵書は、当初計画から大幅に構想が乖離している。
- ・団体活動室は、需要供給のバランスが取れている。

(4) 学校給食センターの稼働状況について

- ・年々50食が減少している。高校生や保育園など活用の検討を望む。

9 その他

【総務部】

(1) 「別海町町有バス運行規程（福祉バス）」について、報告を受ける。

- ・福祉バスの民間委託は理解できる。

(2) 旧中央公民館の処分について、報告を受ける。

- ・旧公民館の解体処分は、令和 6 年度に行わない。
- ・実施計画に位置づけしていたにもかかわらず、突然変更。
- ・跡地は、福祉ゾーンが優先されると公式見解を示していたにもかかわらず、今後各種団体の意見を聞いて利用を考える方針。
- ・市街地全体の構想がない中で、個別に跡地利用を決定するやり方には疑問視。
- ・空き家のまま 2 年以上放置する。

(3) 予算・事業の見える化について、報告を受ける。

- ・予算・事業の見える化は、良いシステムと感じる。
- ・このシステムの前に、財政運営基準の見直しや跡地利用の方針などが決まっていなければ、本末転倒。

※調査事項全般に言えることだが、しっかりとしたビジョンを持って計画実行すべき。

今後も監視する必要がある、全て継続調査とする。

【教育委員会】

- (4) ワールドカップについて、報告を受ける。
- (5) 全道中体連スケート大会の結果について、報告を受ける。
- (6) 18歳成人者への対応について、報告を受ける。

・9月末に10月からの制度改正に向けてのかけ込み寄附はホタテが主流、バターは作りきれない。

・いつまで続くか、予測困難な財源のため、しっかりとした、活用計画が望まれる。

【地域めぐり懇談会意見の取扱い】

- ・総務文教常任委員会に対する意見の取扱いは、
 - ① 調査事項に追加する意見
 - ② 委員会の総意で一般質問する意見
 - ③ 個人的な見解で一般質問する意見 を必要に応じて3分類に仕分けする。

- ①
 - ・学校統合後の廃校舎の利活用
 - ・地域おこし協力隊との交流の場
 - ・複合的な交通手段の整備(生活・観光・福祉)ライドシェア、乗合・有償旅客運送など
- ②
 - ・人口ビジョンを見据えた別海町型コンパクトシティ化構想
 - ・西部エリアに道の駅構想提案(演習場の通り道27万人、研修牧場の観光体験施設、グランピング施設、温泉施設、地場製品の販売・流通拠点、駐車場をキャンピングカーが滞在できる設備、冬季の災害避難所に指定できる広さの駐車場などを集約した拠点施設を想定)
 - ・尾岱沼の道の駅を充実して集客を図る。
 - ・複合的な交通手段の整備(生活・観光・福祉)ライドシェア、乗合・有償旅客運送など
 - ・地域おこし協力隊との交流の場
- ③
 - ・新規就農者への助成
 - ・子育て世代への減税
 - ・婚活事業

※地域めぐり懇談会の意見は、委員会調査で課題が解決する事項は、できるだけ委員会調査で行うこととする。

なお、今年度の委員会所管事項調査は、調査項目数が多く6月に継続調査の議決をしたが、消化しきれていない。

今後の調査は、深い調査が必要と判断した事項をピンポイントで調査する手法も取り入れて行いたい。

次に委員会の総意で行う一般質問は、範囲が広い課題もあり、他の常任委員会での取扱いを含め、全員協議会あるいは合同委員会で協議をした上で実行を決定していきたい。

なお、大きな構想、広範囲な課題などは一つの委員会では調査が困難なので、（人口ビジョンを見据えた別海町型コンパクトシティ化構想や西部エリアに道の駅構想提案（演習場の通り道 27 万人）、研修牧場の観光体験施設、グランピング施設、温泉施設、地場産品の販売・流通拠点、駐車場をキャンピングカーが滞在できる設備、冬季災害避難所に指定できる広さの駐車場など集約した拠点施設を想定）などは、議会運営委員会で協議され、必要に応じて特別委員会を設置して調査していきたい意向です。

各常任委員会ではそれぞれの「地域めぐり懇談会の意見」をどう取り扱うか、情報の共有をして政策に反映していきたい。

以上